

## 2017 年頭のご挨拶 / 理事長 高木啓吾

新年明けましておめでとうございます。

この1年、皆さんとまた一緒に前進できることを楽しみにしています。

昨年末に、干支「さる」についてお話しました。戸塚周辺でも道端には地域信仰の石碑：[庚申塔（こうしんとう）](#)に彫り込まれた三猿（さんざる、さんえん）に出合います。「見ざる 聞かざる 言わざる」とは、とかく人間は自分にとって都合の悪いことを封じてみたり、相手の欠点を、見たり聞いたり言ったりしがちだが、それらはしないほうがよいという戒め（いましめ）です。これとは反対に、良いことは「よく見る よく聞く よく話す」という「お元気三猿」信仰もありますが、この前向きな姿勢は医療界では基本となります。

さて、本年の干支「とり」はどの方向に飛躍していくのでしょうか。

今、医療は病院内から病院外へと広がっています。患者さんの個人疾病情報は病病連携、病診連携の中でコミュニケーションツール（アプリ）を介して瞬時に伝わるようになってきました。近隣の病院ではその試みが本年4月から開始されますし、またセコム医療システムでもその構想が始まっています。将来、これらのツールには人工知能（AI: artificial intelligence）が加わってくるでしょう。

患者さんに安全で安心な医療を提供し、住み慣れた環境で生活できるように地域包括ケアおよび地域医療構想が進められています。患者さんの問題解決に必要な個人疾病情報は、正確に伝わらなくてはなりません。その根底には、「信頼」が欠かせません。医療および介護施設間での信頼関係、職員間の信頼関係、患者さんとの信頼関係、これが無くては何も進みません。

この信頼関係のもとで、一人でも多くの患者さんから感謝がいただけるよう、全職員には、日々精進していただきたいと思えます。

これからの1年、どうぞよろしく申し上げます。